



ジョアン・ミロ「夜鳴きうぐいすと女」

— 県立美術館「ミロ回顧展」より

会期・九月一日(土)～九月三〇日(日)

美術館だより

開館記念展第二部

「ミロ回顧展」

ジョアン・ミロは、夢と詩情漂う作品を発表したが、後にシュルレアリズムの方向に転じ独自の作風を形成した。

強烈な原色と有機的な形態の画面構成は高い造型性をもつ。本回顧展は、ミロの絵画・版画・彫刻・陶器など百七十点余を展観することができる大規模なものである。(上掲写真)

収蔵作品作者紹介

「ポール・ゴーギャン」

ゴーギャンは文明社会を嫌いタヒチに住み、多くの作品を残した。

この作品はブルターニュ時代のもので、平面的な画風を確立しはじめる時期の特徴がよく表われており、一八八九年に制作されたものである。(下掲写真)



〈収蔵作品紹介〉(本文四十八ページ参照)

ポール・ゴーギャン・「ブルターニュの子供」